



兵庫県立丹波の森公苑

## 「あっちこっち関西」進行中！

「関西ビジョン2030」の策定を機に始動した「あっちこっち関西・イノベーションプロジェクト」。関西の地方都市が課題解決に向け展開している取り組みをサポートすることで地域に貢献し、関西全体の社会課題の解決やイノベーション創出につなげることをめざすプロジェクトである。

昨年8月には、京都府舞鶴市および兵庫県丹波県民局と連携協定を締結。現在は、それぞれの地域のニーズに基づく事業を、会員企業等の協力を得ながら進めている。

今号では、連携協定締結後の約1年間に両地域で行った活動を紹介するとともに、地元とのより深い交流、さらには新しい働き方の実践を目的に実施した、当会職員による2週間の丹波地域滞在の体験レポートもあわせて掲載する。

### 「あっちこっち関西・イノベーションプロジェクト」そのねらいとは

**当** 会が考える“2030年の関西のありたき姿”を示した「関西ビジョン2030」（2020年12月公表）で、取り組みの方向性として掲げた「7本の矢」。その一つとして打ち出したのが「あっちこっち関西・イノベーションプロジェクト（以下、あっちこっち関西）」である。そこには「これまでの都市中心の発想を転換する必要がある」との当会の思いが込められている。

地域資源や魅力がある一方、人口減少など多くの課題を抱える関西の地方都市。その解決に向けては、起業促進、IoT化、MaaS、ワーケーションの推進などさまざまな取り組みが各地で展開されている。「あっちこっち関西」は、地域の課題解決やイノベーション創出に取り組んでいる関西

の地方都市を、当会のネットワークを生かして会員企業や関西のスタートアップ、大学などと結びつけ、さらには情報発信への協力などを行うことにより応援するプロジェクトで、取り組みを広げていくことで関西全体の社会課題の解決やイノベーション創出に貢献することをめざしていく。

プロジェクト初年度となる2021年度には各地の取り組みの調査や連携先の検討を行い、昨年8月に開催したキックオフシンポジウムにて京都府舞鶴市および兵庫県丹波県民局と連携協定を締結した。以降、それぞれの地域のニーズにそって、会員企業等に協力いただきながら取り組みを進めている。

## 京都府舞鶴市との取り組み ～セミナーや体験会を中心に～



シン・エネルギー体験会(2022年10月)

2019年に内閣府より「SDGs未来都市」や「SDGsモデル事業」に選定され、企業や大学、研究機関等と連携し、ITやIoTなどの技術を活用したまちづくりを推進している舞鶴市。協定では、GXやDXによる地域イノベーションの分野などでの連携がうたわれている。2022年11月には、舞鶴市と共催で、事業者を対象とした「シン・エネルギーセミナー」を開催。京都大学および舞鶴工業高等専門学校の講師による、「舞鶴市における再生可能エネルギーの導入可能性」をテーマとした講義のほか、当会会員企業等4社による水素エネルギー等のカーボンニュートラルに関連する最新の事例紹介などが行われた。あわせて地域自治体における新エネルギーの導入や普及に向けた課題などについての意見交換も実施された。

セミナーに先立ち、10月には小・中学生を対

象にクリーンエネルギーや環境に対する理解を深めることを目的とした「シン・エネルギー体験会」も実施した。体験会でも会員企業2社の協力を得てブースの出展を行い、手回し発電体験や水素を燃料としたロケットの発射実験等を行った。訪れた多くの親子連れに、わかりやすいエネルギー教育を企業から提供する機会となった。

また、2023年2月にはグラングリーン大阪(うめきた2期地区開発事業)のイノベーション創出機能の構築に向け、当会とうめきた未来イノベーション機構が共催するスタートアップ等とのマッチングイベント「うめきた響合の場」に舞鶴市と兵庫県丹波県民局がそれぞれブース出展した。事前に特設ホームページにて各地域の課題を公表し、それらの課題に対する提案を持つスタートアップ等とイベント当日に面談した。舞鶴市ではその後も大学発のスタートアップと継続して課題解決に向けた協議を進めている。

## 兵庫県丹波県民局との取り組み ～3つの柱で進める取り組み～

米国の「シリコンバレー」になぞらえた「シリ丹バレープロジェクト」を推進している兵庫県の丹波地域(丹波篠山市、丹波市)。古民家等の風情あふれる町並みと、京阪神に近接し大都市とも行き来しやすい特長を持つ同地域とは、「DXによる地域イノベーション」「起業支援ネットワーク構築」「コワーキングスペース連携」などにおける協力を念頭に連携協定を結んでいる。



松本会長による視察(2022年10月)



昨年の10月27日には、当会の松本正義会長が丹波篠山市を視察した。同市福住地区にある廃校を活用したコミュニティー施設にて地元の起業家たちと意見交換したほか、齋藤元彦 兵庫県知事とともに、ダイハツ工業がドローンなどを使って農業支援に取り組む現場やコワーキングスペースを視察。関係者とも意見を交わし、地域のニーズをヒアリングした。

丹波地域では、「地域ブランディング」「イノベーション」「起業支援」の3つの柱で取り組みを進めることとした。また、取り組みの一環として本年6月には当会職員による2週間の滞在を実施した(P.6 参照)。3つの柱による活動の概要を次に紹介する。

### 地域ブランディングへの協力

丹波地域の魅力発信や地域の関係者を巻き込んだオープンイノベーションの推進に協力している。

2022年9月実施の「シリ丹バレー広報勉強会」(当会共催)では、富山県や瀬戸内圏における地域魅力の発信事例を紹介し、意見交換を行った。「兵庫県立丹波の森公苑リニューアル記念式典」(本年5月開催)では、コワーキングスペースの開設

イベントのトークセッションへの登壇者の招へいに協力した(同様のスペースの設計に携わった経験者を会員企業から紹介)。



第1回グローバル丹波推進会議(2023年6月)

そのほか、兵庫県が、2025年大阪・関西万博の開催を機に進めているプログラム「ひょうごフィールドパビリオン\*」に関し、丹波地域の構想の推進や発信のため丹波焼の窯元や酒造会社などの地元関係者が参画して立ち上げた「グローバル丹波推進会議」のキックオフイベント(本年6月開催、当会共催)に協力。会員企業から講師を派遣いただき、オープンイノベーションに関する説明および共同事業のアイデアを考えるワークショップを実施した。今後、関西観光本部などとも連携し、魅力発信やツアー組成に協力する予定である。

\*兵庫県全体をパビリオンに見立て、地域のSDGsを体現する活動の現場(フィールド)を地域の人びとが主体となって発信・体験するプログラム。

### 会員企業等と協力して実施した取り組み

分野	会合名(開催日)／関経連の役割	協力企業等
京都府舞鶴市	シン・エネルギー体験会 (2022年10月28日~29日) 共催・出展協力	岩谷産業、関西電力、産業技術総合研究所
	シン・エネルギーセミナー (2022年11月18日) 共催・講師協力	岩谷産業、川崎重工業、関西電力、三井E&Sマシナリー
兵庫県丹波地域	シリ丹バレー広報勉強会 (2022年9月20日) 共催・講師協力	電通西日本
	兵庫県立丹波の森公苑リニューアル記念式典 (2023年5月21日) 講師協力	西日本電信電話
	第1回グローバル丹波推進会議 (2023年6月27日) 共催・講師協力	デロイト トーマツ コンサルティング
イノベーション	丹波ウッドバレープロジェクト 研究会準備会 (2023年3月6日) 共催・講師協力	エイチ・ツー・オー リテイリング
	丹波地域農業経営士・女性農漁業士・青年農業士合同研修会 (2023年8月18日) 共催・農業系スタートアップ招へい協力	関西イノベーションイニシアティブ
起業支援	女性起業家サポート交流会 (2023年2月22日) 共催	大阪産業局、LED関西(女性起業家応援プロジェクト&ネットワーク)
	たんばStartup Lab マーケティング講座 (2023年9月30日) 若年層を対象とした起業家教育への講師協力	サントリーホールディングス

## イノベーション創出に向けた協力

域外企業とのマッチング等により、地域のイノベーション創出、事業共創の拡大をはかっている。

圏域の6割を森林が占める丹波地域の最大の資源である「木材」を活用して、ビジネスを拡大させようという「丹波ウッドバレープロジェクト」が、シリバレー構想の一つとして始動している。3月に行われた丹波産木材を活用したイノベーションをめざす研究会の準備会には、当会および当方が声がけた会員企業(百貨店)の担当者が参加し、小売業の視点から、丹波産木材の新しい価値の創造方策について提案した。今後は、百貨店等での企画展の検討や実施に向けてのサポートなどに取り組んでいく。

また、現状、丹波地域では農業も盛んであるが、人手不足など対応が迫られるさまざまな課題も顕在化している。そこで本年8月、丹波地域で指導的役割を担う農家の研修会の場を活用し、当会が紹介したスタートアップ3社とのマッチングを実施した。参加者とスタートアップとの間で積極的な意見交換が行われ、パワーアシストスーツの試着や、農場経営を実施するスタートアップへの視察の実施につながった。今後も継続実施を予定している。



研修会でのデモンストレーション(2023年8月)

## 起業支援への協力

起業支援や起業家ネットワークの構築につながる取り組みとして次のような活動を行っている。

大阪産業局の「女性起業家応援プロジェクト&ネットワーク」のビジネスコンテストにおいて、

ファイナリストとなった経験のある女性起業家と丹波の女性起業家との交流会を本年2月に実施。双方の事業紹介のほか、それぞれが抱えている課題や今後の活動の方向性について語り合った。

さらに、将来を見据えた取り組みの一つとして若年層を対象とした起業家育成にも着手。9月に高校生から28歳までを対象に起業体験プログラムを実施し、会員企業の協力を得て、マーケティング担当者による講義やワークショップを行った。

## さらに取り組みを広げ、関西全体のイノベーション創出に貢献

**連** 携協定地域での活動も2年目に入っており、今後は1年目の取り組みで得た経験もふまえながらより幅広く、より深化した活動を展開していく。

舞鶴市では、後継者や人手の不足に悩む漁業における課題解決の一助とすべく、スタートアップ等と漁業関係者とのマッチングを現地で企画予定。スタートアップが持つ技術が活用できないかを探る。また、カーボンニュートラルに向けたさまざまな取り組みにも協力する。

丹波地域では、地域の関係者とともにオープンイノベーションの推進や地域の魅力の発信に資する活動に注力していく。「グローバル丹波推進会議」による万博に向けたツアー組成や発信への協力、丹波産木材を活用した百貨店等での企画展に向けた検討・サポート等はその一例である。農業経営者とスタートアップとのマッチングも継続して行う。一方、起業支援としては、若年層を対象とする起業家教育やSTEAM(Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics)教育への講師派遣等にも協力する。

こうして現地のニーズに対応した活動を続けてノウハウを蓄積し、取り組みを広げていくことで関西全体の社会課題の解決やイノベーションの創出に貢献していく。

(産業部 金枝敏克・樋口昌子・山下善寛・高橋葵)



戻ってきました!!

## 丹波地域滞在体験レポート

「あっちこっち関西」の取り組みをより深化させるには、地域のことやそこに暮らす人びとについてもっと深く知ることが必要では——。“百聞は一見に如かず”ということで、最近注目の地方都市に滞在しリモートワークなどを行う新しい働き方の体験も兼ねて「あっちこっち関西」を担当する当会職員が、兵庫県丹波県民局の協力のもと2023年6月15日～28日の2週間、丹波地域に滞在してきました。

ここからは、滞在を体験した産業部 高橋葵をご紹介します。

今回は、①丹波地域との関係の強化、②今後の取り組みに向けた課題の発見、③新しい働き方の実践などを目的に滞在しました。



### ①丹波地域との関係の強化

丹波域内の各地を訪問し、のべ100人近くの方にお話をうかがいました。廃校を地域の交流拠点とすることを目的に、「教室」を地域の史料の展示室や工房にしたり、ギャラリー向けのテナントとして運用しているNPO法人の方、そして移住してそのテナントの一つに入居されている写真家の方ともお話ししました。1つの場所を介してバックグラウンドの異なる人びとが交わることで地域に大きな影響を与えていることをじかに感じました。

トークイベントに登壇し関経連の取り組みを紹介するなど、私自身が地域の皆さんに発信する機会もいただきました。



トークイベントにて関経連の取り組みを紹介

### ②今後の取り組みに向けた課題の発見

今後、連携の可能性がありそうな地域内の取り組みや課題等について調査・検討を行い、以下の具体的な取り組みにつながりました。

- ロボットを用いて雑草の生育を抑制し、有機栽培を行っている農家の取り組みを、当会が作成している「ICT・IoT・AI等活用事例集」に業務効率化の事例として追加掲載。
- 農業分野の課題解決に向けて、丹波地域の農家と、農業に関連する技術を持つ関西のスタートアップの連携によるイノベーションの創出をめざし、8月中旬に丹波県民局と協力してマッチングを開催。

### ③新しい働き方の実践

丹波地域には、民家をリノベーションした施設や丹波の森公苑内の緑に囲まれた施設など魅力的なコワーキングスペースが多数あります。こうした施設を活用してリモートワークを実践してみました。オンライン会議では、私の背景に映り込む自然が会議全体を和ませることに。自然の力の大きさを実感しました。

また、それぞれの施設で私の職場では出会うことのできない方との出会いもあり、全社員がフルリモートで勤務されている企業の方にコミュニケーションの工夫などを聞くこともできました。多様な働き方・考え方に触れる貴重な機会となりました。



元「教室」で写真家の方の活動等についてヒアリング

### 滞在で得たつながりや経験を今後

2週間の滞在で丹波地域の魅力をかなり満喫することができました。丹波県民局の皆さまには休日を含めてお世話になり、その関係性はより強固なものになったと思います。

今回の滞在を通して得た人とのつながりや経験を、今後の「あっちこっち関西」の取り組みはもちろん、さまざまなフィールドで生かしていきたいと考えています。